

2025 年度 第 1 回看護分野教育課程編成委員会 議事録

1. 日時

2025 年 7 月 18 日（金） 15:00～17:00

2. 場所

早稲田速記医療福祉専門学校 本校 1 階 会議室

3. 出席者（順不同・敬称略）

委 員：秋山陽子（公益社団法人 東京都看護協会 西部地区理事）

永池京子（社会医療法人 河北医療財団本部 副本部長）

本 校 委 員：川口拓也（校長）、伊東由美（看護科学科長）、渡邊明子（看護科副学科長）

岡本隆行（看護科教員科教員）、榊原幸之（事務局長）

オブザーバー：前田律子（副校長）

委員会事務局：安里良美

4. 欠席者

なし

5. 議長

伊東由美

【議題等】

1. 開会の挨拶と委員紹介、校長挨拶

学科長より開会が宣言され、今年度より外部委員として就任した委員より自己紹介があった。校長より学校の設置学科や沿革、教育の特色について説明があった。

2. 前回（2024 年 2 月 8 日）議事録の確認（資料 1）

前回の議事録が提示され、内容に異議がないことが確認され、承認された。

3. 前回委員会以降の主な経過報告（資料 2）

事務局長より、学生の退学状況、就職内定状況、授業アンケートの実施状況、および 2025 年度生の募集状況について報告が行われ、確認、了承された。

4. 2025 年度の活動報告（資料 3・4）

教員より、資料 3 に基づき 2025 年度の授業計画が報告された。

外部講師派遣会社の利用により、一部科目の授業が集中する時間割に変更および、実習期間

の大幅な変更に伴い、座学のカリキュラムを調整した。学生の負担を考慮し、過密にならないよう配慮したと説明があった。

副学科長より、資料4に基づき2025年度の実習計画が報告された。

河北医療財団以外にも実習施設を拡大し、多様な現場での学習機会を提供していく。母性看護学実習や基礎看護学実習は夏休み期間も利用して実施する。実習先の変更はあったものの、学生は比較的に対応しているが、教員側にはスケジュール調整の負担が生じているとの説明があった。

5. 新カリキュラム運営の報告（振り返りと課題）

学科長より、新カリキュラム運営の報告がなされた。

①教育理念の見直し

「恕」から「不偏不羈」へという新しい理念を掲げ、人間性と専門性を兼ね備えた人材の育成を目指している。

②教育目的・目標の見直し

地域社会への貢献を明示する文言を追加し、教育目標においては倫理観、多職種連携、自己成長力、学び続ける力などを強調した。

③3つのポリシーの整備

アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの3つが、学生募集要項、シラバス、学生ガイド等に明記され、周知が図られている。

④学生の状況

国家試験合格率は全国平均をやや下回るものの、就職率は100%を維持している。新カリキュラム導入初年度の学生が卒業した。また、総授業時間の増加により、学生の負担が大きくなっている現状も報告された。

⑤教育内容の具体化と潜在的カリキュラムの可視化

「キャリアデザイン」科目を通じて自己の経験を振り返り、将来像を言語化する取り組みが紹介された。ホームルームや行事等の非公式活動も教育目標との関連性を明確化するよう努力している。特に「書くこと」により自己の成長を可視化し、主体的な学びを促進がしている。

⑥今後の課題

- ・完全に可視化しきれない潜在的カリキュラムの存在
- ・社会人学生の減少、外国人留学生とのコミュニケーション
- ・授業過多による学生の負担軽減と質の高い教育提供

- ・現場で活躍できる人材の育成と、「自ら考える力」の養成
- ・人間性、社会人としての常識を重視した教育の強化

⑦ホームカミングデーの開催報告

卒業生との交流を通じ、現場での成長報告を受ける機会として実施した。教育成果の確認と感謝を伝える場となっている。

【委員からの意見・討議】

- ・1日休むと欠席のコマ数が増えて、時間不足などの問題が発生する可能性はあるのか。
- ・現状では発生していないが、懸念している点である。授業の組み方が学校側の都合によるものであるため、学生に不利益がないよう考慮する方針である。
- ・外部講師はご自身の所属があり、医師として働かれているのか。
- ・外部講師は医師ではないが、それぞれの専門分野で指導経験がある方々である。東京都の規定上、医師でなくとも担当できる科目があり、その会社と契約している講師が派遣されている。
- ・教育目標の5と6、特に「学び続ける能力」などについて、具体的にどの教育目標を対象としているのか。
- ・研修を受けた講師が、工夫された指導法（板書、小テスト、グループワークなど）を用いて学生の興味を引きつけ、教育目標の達成に貢献している。
- ・看護大学と看護専門学校の学生の違いとして、自ら考えて行動する力や自己選択・責任を育むにはどうしたらよいのか。文部科学省と厚生労働省のカリキュラムの違いを踏まえ、学生に自律性と責任感を育む方法について意見を伺いたい。
- ・卒業生からの意見として、専門学校で得た人間性や常識が現場で役立っているという声がある。技術だけでなく、考える力や主体性を育む教育が重要であり、学校はPDCAサイクルを回しながら、この課題に取り組んでいく必要がある。また、キャリアプランニングを通じて学生の成長を可視化する取り組みも行っている。
- ・ホームカミングデーの内容はどのようなものか。
- ・卒業生が現在の状況を報告し、卒業後の経験や近況を共有する場である。学校側は、卒業生が現場で活躍できる人材であることを確認し、感謝を伝える機会となっている。

6. 次回開催日程の確認

第2回委員会は2026年2月6日（金）15:00から開催することを確認した。

7. 閉会

司会より閉会の挨拶があり、会議は終了した。